

審判員派遣報告書

派遣事業名	第30回四国中学校バスケット ボール黒潮新人大会	派遣期日	令和6年2月12日
報告者	岩瀬寛明	派遣先	高知県高知市

1 大会概要

大会名称	第30回四国中学校バスケット ボール黒潮新人大会	大会期間	令和6年2月11日～12日
大会概要	四国4県の男女各上位2チームが参加。新人戦の四国大会という位置づけである。		

2 担当試合 ※（試合内容は簡潔に書いてください）

日程	令和6年2月12日	会場	春野総合運動公園体育館
審判クルー	CC: 岩瀬寛明（香川） U1: 森みゆき（高知） U2: 竹内千尋（高知）		
担当試合	藍住東（徳島1位） VS 土居（愛媛1位）		
試合内容	高さで上回る土居がリバウンドからのシュートを得点し、優位に立った。藍住東もオールコートでプレッシャーをかけたが、土居が逃げ切った。		

日程	令和6年2月12日	会場	春野総合運動公園体育館
審判クルー	CC: 岩瀬寛明（香川） U1: 笹原裕希（高知） U2: 檜山裕輝（愛媛）		
担当試合	丸亀西（香川1位） VS 県立北・古高松（香川2位）		
試合内容	県立北・古高松のロングシュートがよく決まる一方、丸亀西も粘り強いディフェンスで対抗した。リバウンドでのコンタクトが重要な試合であった。		

3 大会（研修会）を通して 《 学んだこと 感じたこと 県内審判に伝えたいこと 等 》

●初めてのクルーとの共有やCCとしての責任

ゲーム中、メカニクスやコーリングガイドラインについてクルー間の共有がうまくいかないケースが多々あった。クルーそれぞれで3POの理解が様々であるので、PGCを含めてゲーム中にケースをインプットし、クォーター間に共有することが大切であった。またCCとしてプライマリーはもちろんのこと、ゲーム全体を把握することが求められる試合であった。何が起きていて、クルーが判定したものに対してベンチからのコミュニケーションにどう応えるかを実践できたことについては大きな収穫があった。

●クロック管理について

TOを中学生が行っていたこともあり、ショットクロックの訂正を行う場面が多かった。そのため、常にショットクロックとゲームクロックを意識した。それにより、自分の課題にも気づくことができた。普段からスローインの際のタイムインのシグナルで、その都度クロックスタートの確認ができていなかった。レフリーが行うシグナルの意味についても改めて考えさせられた機会となった。

●その他

1日だけの参加ではありましたが、自分の所属する連盟においてレベルの高い大会に参加させて頂いた。他県審判員の熱心な姿にも刺激を受け、自身も身が引き締まる思いであった。上級レフリーとして、模範となる行動に繋げていきたい。最後に、参加の機会を与えて下さった香川県協会の皆様に感謝申し上げます。今後とも引き続き、よろしくお願い致します。